

「ヴォイス」 Voice

みよし市では、皆さまからの市政に対する意見を久野知英市長が直接お聴きする「市長とのふれあい座談会」を開催したり、提言箱などから「皆さまの提言」をいただいたりすることで「心の通う対話とガラス張りの市政」を進めていこうと努めています。

また、市長が率直な思いを綴る「コラム」や「コミュニケーションFM」に生出演する「市長ホットライン」を放送するなど、市長を身近に感じていただき、市政に関心を持っていただく取り組みをしています。

●市長ホットライン放送予定

▼とき＝〇の月〇日(月)午前〇時(生放送)、午後〇時(再放送)

▼放送局＝エフエムとよた ラジオ・ラブリート(78.0MHz)

連載第94回



コラム
Column

震災の影響が残る夏に向かって

東日本大震災の復旧作業はまだまだ道半ばです。それでも多方面からの支援で着実に復興に向けて、連日懸命に取り組んでいる姿に頭が下がります。

避難所生活を送っている多くの人に対し、政府はお盆までに仮設住宅を全て完成する目標を立て努力しています。一刻も早く集合避難生活を解消できるようにしてほしいものです。再び津波が押し寄せる心配のない場所に建設となると、少し高台に建てる必要がありますが、報道によれば適地を探すのに、相当な苦労の様子が伝わってきます。お盆までに仮設住宅ができたとしても、その先の普段の生活に戻る事の方がもっと大変だと思えます。東北地方の皆さんは粘り強い人が多いと聞きます。気持ちの面であげることなく頑張つて復興を果たしていただきたいと思えます。私たちもいろいろな形で支援を続けていきたいと思います。

一方、福島第一原子力発電所の爆発事故による放射能漏れのため、強制的

に避難を余儀なくされた地域の人や、それに近い自主避難の人が大勢います。事故発生から80日が経過した今、収束に向け新たな工程表が示されましたが、本当の終息への道筋は見えてきません。津波による被害を受けた人とは別の、大きな不安という立ちを持っているものと思えます。放射能は目に見えないこともあり、余計に不安が募ります。

しかし、原発被災者は「国策の被害者」と明記されたことで、国が最後まで責任を持つことが担保されましたが、解決に向けてはこれから長い道のりとなるでしょう。被災していない地域の私たちがしっかりと応援をし、復興を果たすまで粘り強く協力していくことが必要です。

また、浜岡原子力発電所の運転が停止され、この夏この地方にどんな影響が出るか心配されます。そんな中、夏場に予想される大幅な電力需要に配慮して、日本自動車工業会はいち早く勤務形態の変更を発表しました。私たちも少し昔の生活に戻り、部屋の中でも暑さを感じながらの生活を一人一人が心掛ければ、大きな省エネにつながります。私も当然挑戦していきます。

みよし市長

久野知英

皆さまからの提言をお待ちしています

みよし市では、心の通う対話とガラス張りの市政を進めていこうと、市政に対する皆さまからの提言をいただくため「皆さまの提言箱」を設けています。そのほか、下記①から③のいずれかの方法でも受け付けています。

▶提言箱設置場所＝市役所、サンネット、サンアート、市民病院、総合体育館、中央図書館

①電子メール… ☒ teigen@city.aichi-miyoshi.lg.jp

②ファクス… ☎ (34)6008

③郵便… 〒 470-0295 みよし市役所秘書広報課あて(住所不要)

※皆さんからいただいた提言は、市全体に対する提言としてとらえ、個別の回答はしません。みよし市ホームページ(<http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp>)の各ページ下部にある各担当課への「お問い合わせ」フォームをご利用いただいたお問い合わせに対しては、担当課から直接回答させていただきます。秘書広報課 ☎(32)8357



携帯電話からメールで提言できます